

# ネパール子ども病院 開所

【フトワル（ネパール）2日藤原健】ネパール南部のフトワル市郊外の「ネパール子ども病院」の開所式

が2日午後、現地で行われた。子ども病院は、阪神大震災の被災者にアジア・アフリカから救援の手が差し伸べられたことを機に、アジアで最も貧しい国の一つで小児専門病院が首都・カトマンズにしかないネパールに「お返しをしよう」と毎日新聞と毎日新聞社会事業団がAMD A（アジア医師連絡協議会、本部・岡山

市）と連携してキャンペーンを展開。読者の寄金を基に建設が進められていた。

開所式は午後2時（日本時間同5時15分）すぎから始まり、菅波茂・AMD A代表ら日本からの約30人と地元住民約2000人が出席した。

セレスト・ボーズ・プロサル・フトワル市長が「市を挙げて病院運営に協力し、日本の皆さんの友情に応えたい」と謝意を表明。橋本博行・毎日新聞大阪社



会事業団常務理事が「ネパールの子どもの命を1人でも多く救うことができるように願っています」とあいさつし、病院の設計を引き受けた建築家、安藤忠雄さんから贈られた絵本や、AMD A兵庫（連利博代表）などが窓口となって集めた医薬品の贈呈式も行われた。

オープンした病院は2階建てで、約50床で部分開業。今後、診療科を増やすなどし、付属の看護施設などの建設も予定されている。

読者寄金基に

**2階建て50床**